

檜の会

平成二十年
秋季
第二十八号

NPO法人「檜の会」事務局
京・東山やすい松小路
TEL/FAX 〇七五五二五・〇八〇三

皆様の「ご意見、ご投稿など」
お待ちしております。
E-mail BD503240@nifty.com

企画・編集／檜の会会報編集室
発行／季刊（一・四・七・十月）
http://village.infoweb.ne.jp/hinoki/

第三回「伝統文化の精華」の報告

去る九月七日(土)高台寺圓徳院において、第三回「伝統文化の精華展」を催しました。今回は、展示が少ないように思われましたが、会場の雰囲気と展示品はうまく調和しており、落ち着いて鑑賞していただけたと思います。入場者は、檜の会の会員はもちろん、当日天候にも恵まれ、偶然立ち寄られた旅行者も多く、無料で入場でき、三五七人が珍しい美術工芸品を鑑賞できたことを喜んでおられました。外国人の入場者も述べ二〇名ほどあり、英語での展示品の説明に満足される場面もありました。

今回の企画は、展示のみならず、講演、結びの体験、魔鏡の実演もあり、鑑賞だけでなく多様な関わりを持っていただけ好評でした。

*美術出展

川島美園「修多羅」「五輪乃和」「信玄兜」

山田豊子「瓢杓」「乾漆蒼蒼祭器」

近藤富士金「純金箔粉千手観音絹地(チベット)」「純金箔董金マンダラ絹地」

春日井路子「染色額」「花かんざし」「染額流水」

山本晃久「三角縁神獣鏡」「魔鏡」

小暮幹雄「現代結び」

高取笑貴弥「几帳 花づくし」「伏籠」

石黒香舖「飾り香 時計草」「花車」

*特別出展 山田全一師「雅楽器」(笛、笛筒、鼓)

*賛助出展 和楽「唐獅子香炉」赤・黒一対

*賛助出演 大西一畝「一弦琴」

*講演 「伝統京菓子」柏屋光貞 中川多津也氏

*体験コーナー 「結びの体験」

*実演 「阿弥陀仏魔鏡」山本晃久



湖北紀行

山本 洋

去る七月十二日「檜の会」主催による奥琵琶湖の歴史・文学を楽しむ旅に参加した。私自身は、檜の会の会員ではないが、今回の行楽が脇谷英勝先生のご指導によるものと知り、参加メンバーの一員に加えて戴いたわけである。この度の奥琵琶湖の周遊は日帰りという時間的制約もあつて、木之本へ余呉湖往復といった距離的には短い旅であつたが、脇谷先生の豊かな学殖に基く御解説を賜り乍ら数多くの古蹟を訪ねたことはまことに有意義であつた。

JR木之本駅を降りて、準備されたマイクロバスで最初に訪れたのは木之本地藏院。北国街道有数の宿場町である木之本町は、この地藏院の門前町として古くから栄えていたとのことである。地藏院の境内に入るとすぐ右手に高さ六mもあるお地藏さんの立像があつた。このような大柄な地藏菩薩を私は今までに見た事がない。この地藏尊は眼病をなおす力をお持ちで、「目のほとけ様」として全国的に有名とのこと。私自身も年齢的な点で近年やや視力が衰えてきたのでお賽銭をややはずんで神妙にお祈りをしたわけである。

そのあと、三味線・琴など和楽器の糸を製造する工場を見学し、昼食を終えたあと、余呉湖に向つた。余呉湖は琵琶湖の北端から約一籽程度離れた緑の深い山あいの中の小さな湖である。琵琶湖を象とすれば余呉湖は象の鼻先に踞る小兔といったところか。

さて次に賤ヶ岳の古戦場である。賤ヶ岳の七本槍として日本歴史の上ではかなり有名な場所である。これは天正十年に織田信長が死去したあと、その翌年に織田家の後継者問題でもめごとが起り、信長の政治上の後継者を意識していた豊臣秀吉と信長の姻戚関係にあつた越前の柴田勝家との間の戦争である。結果的には秀吉の勝利に帰し、敗れた勝家は夫人・お市の方(信長の妹)と共に自刃するのだが紙数の都合で詳細は略することとする。

賤ヶ岳の戦跡を高地から望見したあと、二つの寺院に詣でてJR木之本駅に帰つたのは午後四時半頃であつたらうか、旅の終りである。駅のプラットホームで京都市の列車を待ち乍ら夕陽を浴びて輝く琵琶湖西岸の山なみを眺めていた。この場所から琵琶湖の湖面は見えないが、今日一日中バスの停まる度毎にうっとり眺めたわが国最大の湖水のゆらまえく水面は、私の拙い筆では到底表現し得ない美しさであつたと云える。

(元万葉の会会員)

—お知らせ—

檜の会主催

秋季文学・歴史散策

京都嵯峨野

渡月橋・小督塚・野宮神社・常寂光寺・落柿舎・

祇王寺・二尊院・清涼寺など

講師 脇谷英勝(帝塚山大学名誉教授・当会副理事長)

とき 十一月三十日(日)午前十時嵐山渡月橋北詰集合

文化カルチャー

現代結び(暮らしに役立つ結びの実技体験)

講師 小暮幹雄(結び文化研究所長・当会理事)

とき 十二月七日(日)午後一時半開場(受付)

午後二時～四時開催

ところ 安井金比羅宮

材料費 会員 一、〇〇〇円 一般 一、五〇〇円

雅楽博物館見学について

とき 後日希望者に案内します。

雅楽の国重要無形文化財保存技術者である山田全一師が自宅に設置された雅楽器の総合博物館で、重要文化財の雅楽器をはじめ各種の雅楽器および製作過程の作品が展示されています。

右記三事業の参加希望者は、同封の申込書でFAXして下さい。

会員情報

サイエンスセミナー

演題 たえずベルイマンの『第七の封印』を想起しながら

人間の幸福と倫理規範

講師 小川 侃(岡崎学園人間環境大学学長・京都大学名誉教授)

とき 十一月十八日(火)午後六時～午後七時三〇分

ところ スウェーデン大使館 オーディトリウム

参加費 JSF/JISS会員一、〇〇〇円 非会員二、〇〇〇円

ご意見ご提案お問合せは事務局までお寄せ下さい。



—豆知識—

◆雅楽の楽器吹きもの・弾きもの・打ちもの

雅楽は、奈良時代以来の永い伝統をもつ楽舞です。主に宮廷や寺院、神社での行事の際に行われ、また管弦の遊びとしても愛好されました。雅楽では、さまざまな形や構造の楽器が使われます。日本古来の楽器と、奈良時代ごろに外国から伝えられた楽器とがあり、次第に日本人の好みに合うように取捨選択されて、今日見る形になりました。楽器は、古典文学との関りが深く、由緒のある名品には「銘」がつけられました。

◆吹きもの(管楽器)

簫すいせき：西域起源といわれる竹製の縦笛。全長約十八cm。指孔は、先が尖

りぎみの楕円形で、表に七孔、裏に二孔。竹の根元に近いほうを

上にして制作します。上端(頭持)に、芦の茎の肉厚の部分で作っ

たりード(芦毛)を差し込んで演奏します。主旋律を司ります。

笙ういせ：中国から伝えられました。全体の姿を鳳凰に見立て鳳笙とも呼ば

れます。総長五〇cm前後。吹口をついた木製漆塗りの匏(頭)の上

面円周上に、十七本の竹管を差し込み、中程を銀製の帯金具で締

めてあります。竹管の下端に響銅製のリード(簧)が取り付けられ

(現行では二管にはリードがない)、息を吹き込んだり吸ったりし

て音を出します。

竈笛かまごえ：竹製の横笛。全長約四十cmで、指孔は七孔。よく乾燥した燻竹を

用い、皮を削り内部の形を整え、吹口と指孔を除いて榊巻(籐の場

合もある)を施します。中国から伝来したもので、主に唐楽に用い

られます。

狛笛こまごえ：高麗楽専用の竹製の横笛。神楽笛：太笛ともいいます。竹製の

横笛。

◆弾きもの(弦楽器)

箏そう：楽箏と呼ぶこともあります。和琴わごん：倭琴ともいいます。

琵琶びば：西アジア起源。楽琵琶と呼ぶこともあります。

◆打ちもの(打楽器)

三鼓さんこ：管弦用の太鼓、羯鼓、鉦鼓のセットです。

(彦根城博物館資料引用)

